

(報道発表資料)

令和6年度
市バス・地下鉄事業決算概要



令和7年8月8日
京都市交通局
担当:企画総務部 財務課
TEL:075-863-5080

令和6年度 市バス・地下鉄事業決算概要

1 令和6年度決算概要

(1)決算の概要 (2)決算の主要数値 (3)お客様の御利用状況

2 重要課題への対応

●重要課題

担い手不足への対応～事業運営の根幹を支える担い手の確保に向けて～

「市バス運転士不足 非常事態宣言」の発出(令和6年9月)を踏まえ、職員の処遇や職場環境の更なる改善を図るなど、引き続き事業運営を支える担い手の確保策を推進

市バスの混雑対策～市民生活と観光の調和に向けて～

地下鉄をはじめとした鉄道を活かした移動経路の分散など市バスの一部路線・時間帯で生じる混雑への対策を積極的に展開

3 主要事項

重点① 安全・安心の取組

交通事業者として最大の責務である「輸送の安全確保」を徹底し、お客様に安全・安心に御利用いただくための取組を最優先に実施

重点② 担い手不足への対応 ※再掲

重点③ 利便性・快適性の向上

お客様により便利で快適に御利用いただくことを目指し、御利用環境の整備やサービスの更なる向上策を実施

重点④ 明確な理念に基づく“なりふり構わない経営改善”の取組

厳しい経営状況にある市バス・地下鉄の持続可能な事業運営を目指し、周辺部への誘客をはじめとする利用促進、収入増加、経費削減等に取り組み、より一層の経営健全化を推進

重点⑤ 社会課題解決への貢献等

子育て支援や事業活動における環境への配慮などSDGsの達成など社会課題解決に向けた取組を展開

4 市バス・地下鉄の財政状況(前年度決算比較)

(1)市バス (2)地下鉄

・この「決算概要」は「令和7年度予算概要」で告示した「予算編成方針」に沿って構成しています。
・各項目に記載の金額は消費税及び地方消費税を含む決算額です。

1 令和6年度決算概要

(1) 決算の概要

(お客様の御利用状況)

- ア 両事業とも、定期(通勤)や定期外(「地下鉄・バス1日券」やICカード利用等)が増加し、年間を通じたお客様数は前年度を上回った
- イ 市バスは、34万人で令和5年度比では7千人(+2.0%)の増となったが、コロナ禍前の令和元年度比では▲5.3%減
- ウ 地下鉄は、40万2千人で令和5年度比では1万7千人(+4.3%)の増となり、コロナ禍前の令和元年度比でも0.1%増で過去最高

(財政状況)

- エ 運賃収入は、お客様数の回復や平均乗車単価の改善の効果もあり、両事業とも前年度及びコロナ禍前の令和元年度を上回った
- オ これにより担い手確保に向けた処遇改善のための人件費や物価の高騰による支出が増加するなか、両事業とも2年連続で黒字を確保
- カ 市バスは、10億円の黒字であるが、国や一般会計による財政支援(約7億円)を含んだものであり、処遇改善のための人件費や軽油価格など物価高騰の影響もあり前年度から2億円減少。こうした厳しい経営状況のなかでも、バス待ち環境の向上など更なる利便性向上策等を着実に実施
- キ 地下鉄は、お客様数の回復や電気料金等の落ち着きなどもあり、前年度を上回る26億円の黒字を確保できたものの、いまだ3千億円にのぼる多額の企業債残高を抱え引き続き厳しい経営状況のなか、延期していた地下鉄烏丸線可動式ホーム柵全駅設置事業の再開を決定するなど更なる安全対策等を着実に実施

(令和6年度の主要事項)

- ク こうしたなかでも、「担い手確保」に向けて、令和6年12月に給与の増額改定を行うなど職員の処遇や職場環境の更なる改善を図るとともに、「市バスの混雑緩和」に向けて、観光特急バスの運行開始や地下鉄をはじめとした鉄道を活かした移動経路の分散化の取組の2つを喫緊の重要課題として積極的に展開
- ケ 交通事業者として最大の責務である輸送の安全確保を最優先に、①「安全・安心の取組」、②「担い手不足への対応」、③「利便性・快適性の向上」、④「明確な理念に基づく“なりふり構わない経営改善”の取組」、⑤「社会課題解決への貢献等」の5つの主要事項を着実に実施
- コ 一人でも多くのお客様に御利用いただくため『地下鉄・バス「MOTTO!」利用促進本部』による全庁を挙げた増客の取組をはじめ、駅ナカビジネスや広告料収入など更なる増収に向けた取組を展開
- サ 「突き抜ける世界都市 京都」の実現に向け、令和9年度における市バス等の「市民優先価格」の導入に向けた検討をはじめ、「新京都戦略」において駅トイレのアップグレードプロジェクトを表明するなど、持続可能で安全かつ満足度の高い市バス・地下鉄事業に向けて着実に前進

(2) 決算の主要数値

【市バス】

	5年度決算 A	6年度決算 B	増▲減 B-A
在籍車両数	810両	810両	—
走行キロ数 〔1日平均〕	81.3千km	81.7千km	0.4千km
経常損益	12億円	10億円	▲2億円
▲累積欠損金	▲10億円	▲0.3億円	10億円
資金剰余额	13億円	30億円	17億円
年度末企業債 残高	83億円	90億円	7億円

【地下鉄】

	5年度決算 A	6年度決算 B	増▲減 B-A
在籍車両数	222両 〔37編成〕	222両 〔37編成〕	—
走行キロ数 〔1日平均〕	55.6千km	55.7千km	0.1千km
経常損益	23億円	26億円	3億円
▲累積欠損金	▲3,102億円	▲3,076億円	26億円
▲累積資金不足	▲420億円	▲438億円	▲18億円
年度末企業債 残高	3,251億円	3,131億円	▲120億円

(3) お客様の御利用状況

【市バス】

(単位：千人/日)

	元年度 A 基準 改定前	2年度	3年度	4年度	5年度 B	6年度	6年度	対前年 増減率		元年度比 増減率 基準改定前 (C-A)/A
						予算	決算 C			
市バス	357	248	268	309	333	331	340	7	2.0%	▲5.3%
うち定期	96	72	78	87	93	94	97	4	4.2%	▲0.7%
うち通勤	72	63	62	68	71	72	74	3	4.0%	2.3%
うち通学(大学)	17	5	9	14	16	16	17	1	7.7%	▲1.8%
うち定期外	187	99	114	149	175	181	188	13	7.1%	0.6%

(参考)

運賃収入 (億円/税抜)	200	140	152	179	200	199	207	7	3.6%	3.6%
-----------------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	------	------

【地下鉄】

(単位：千人/日)

	元年度 A 基準 改定前	2年度	3年度	4年度	5年度 B	6年度	6年度	対前年 増減率		元年度比 増減率 基準改定前 (C-A)/A
						予算	決算 C			
地下鉄	400	267	295	348	385	385	402	17	4.3%	0.1%
うち定期	168	124	139	154	164	165	171	7	4.2%	0.9%
うち通勤	109	96	95	102	108	109	113	5	4.5%	2.7%
うち通学(大学)	40	15	27	34	38	38	40	2	4.7%	▲1.9%
うち定期外	208	119	132	171	201	203	214	13	6.3%	2.6%

(参考)

運賃収入 (億円/税抜)	258	169	186	223	252	250	263	11	4.2%	1.9%
-----------------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	------	------

※両事業とも、令和元年度は収益認識基準（定期券の計上方法の見直し）の改定前の数値であるため参考として記載しています。

2 重要課題への対応

(1) 担い手不足への対応 ～事業運営の根幹を支える担い手の確保に向けて～

「市バス運転士不足 非常事態宣言」の発出(令和6年9月)を踏まえ、職員の処遇や職場環境の更なる改善を図るなど、引き続き事業運営を支える担い手の確保策を推進しました。

ア 担い手の確保・育成等

担い手不足の深刻化により御利用状況に応じた減便等を含めた路線・ダイヤの見直しを行うとともに、公営交通を支える担い手の確保・育成に向けた採用活動や研修制度など事業運営の根幹となる体制確保に取り組んでいます。

① 路線・ダイヤの見直し(令和7年3月 22 日)

深刻な担い手不足を踏まえ、御利用状況に応じた減便・運行区間の短縮等を行うとともに、民間バスとの運賃制度のシームレス化等を踏まえた路線・ダイヤの見直しを実施

② 担い手の確保・育成等

・国の“働きやすい職場環境認証制度”の認証取得(156 千円)



労働条件や労働環境について一定の基準を満たした「働きやすい職場」の認証

- ・就職や転職イベントへの出展等(1,582 千円)
- ・大学生へのアプリによる周知や京都市への定住・移住を促進するポータルサイトでの案内
- ・インターネットによる受験申込の受付や採用試験における筆記試験のオンライン受験(SPI3)の導入による受験機会の拡大(751 千円)
- ・大型二種免許未取得者に対する免許取得費用の支援
※令和6年 10 月以降、免許取得要件(年齢や経験年数)を引き下げる
「受験資格特例教習」費用も支給対象に拡充
- ・バス業界におられない潜在的な人材を掘り起こすことを目的とした大型二種免許取得者向け採用試験の実施
- ・市バスの運転体験会の開催(135 千円)
- ・事故防止や接遇向上に向けた階層別研修の実施
- ・運転士の安全意識高揚やモチベーションアップに向けた「運転技能接遇コンテスト」の開催(87 千円)
- ・資格取得支援制度(京都・観光文化検定等)によるスキルアップの奨励(117 千円)



イ 処遇の更なる改善

職員がやりがいを持って安心して働き続けられるよう、給与や勤務時間、休日、健康管理など処遇の更なる改善を進めています。

① 職員の給与の増額改定(令和6年12月)

市バス運転士や地下鉄運輸関係職員が適用を受ける「運輸職給料表」については、「市バス運転士不足 非常事態宣言」に鑑みた独自措置として更なる増額改定を実施

② 労働条件の改善の検討

勤務間の休息時間の確保など国の新たな基準に対応した市バス運転士における仕業の見直し

ウ 職場環境の改善

性別にかかわらず全ての職員が活躍できる職場づくりに向けた施設改修等に積極的に取り組んでいます。

① 職場環境改善

市バス横大路営業所における仮眠室のリニューアル(4,923 千円)

② 熱中症対策

・市バス整備、地下鉄保守関係職員等への空調服の導入
(市バス 100 千円、地下鉄 2,222 千円)

③ カスタマーハラスメント対策

- ・市バス、地下鉄車内や駅改札口におけるネームプレートを車両番号や管理番号に変更
- ・職員が着用する名札の表記を「氏名」から「名字のみ」としたものに変更
- ・啓発ポスター(公益社団法人日本バス協会作成)の車内への掲出
- ・カスタマーハラスメント対応の手引等の策定
(令和7年8月1日策定)

日本バス協会が作成された
啓発ポスター



エ 「風通しの良い組織風土」の醸成

令和6年度に連続して不祥事を発生させたことを踏まえ、“小さなズルをしない・させない・許さない”正しいと思うことを安心して闊達に意見交換できる「風通しの良い組織風土」の醸成に向け、組織の綱紀粛正と活性化の両輪における取組を継続的かつ着実に実施しているところです。

また、交通局の事業特性を踏まえた目指すべき職員像及び組織像を掲げ、これに向けた職員の行動規範(クレド)と取組項目を定め、全職員、全所属が目標を共有し、一丸となって職員育成・組織活性化の取組を推進することを目的として令和7年3月に「職員育成・組織活性化プラン」を策定しました。

(2)市バスの混雑対策 ～市民生活と観光の調和に向けて～

市バスの一部路線・時間帯で生じる混雑への対策を積極的に展開し、観光課題対策を進めています。

ア 市バス等の「市民優先価格」の実現

全国初のパイロットプロジェクトとなる市バス等の「市民優先価格」について、観光都市であることのメリットを目に見えるかたちで市民に還元し、市民と観光客が共存する機運の醸成に繋げることで、市民生活と観光の調和を目指します。令和9年度の実現に向けて引き続き検討・協議を進めます。

イ 市バス輸送力の効率的な配分等

運転士不足の深刻化という課題がある中でも、通勤や通学、買い物などの市民利用を守りつつ、観光利用にもしっかりと対応し、限られた輸送力を活かした路線・ダイヤの見直しを行い輸送の効率化に取り組みました。

① 路線・ダイヤの見直し等(令和6年6月1日)

- ・御利用状況に応じた運行の見直し(主要系統の増便や運行区間の短縮等)
- ・利便性の高いダイヤ編成

毎時同時分に発車する「パターンダイヤ」の拡大、系統間でのダイヤ調整等

- ・洛西地域のまちづくりと連携した運行の見直し

民間バスとの運賃制度のシームレス化による乗車機会拡大等

- ・「観光特急バス」の新設など観光系統の再編

国の制度改正を踏まえた全国初の「観光特急バス」の新設(効果検証を踏まえた運行ダイヤの調整を令和7年3月に実施)、観光に便利な「楽洛ライン」の通年運行等

② 路線・ダイヤの見直し(令和7年3月22日)※再掲

③ 主要バスのりばや観光地周辺のバス停等における案内活動の充実

- ・京都駅前バスのりばにおける整列・誘導や「京都市バス“おもてなしコンシェルジュ”」による多言語による案内(82,409千円)
- ・「観光特急バス」の停車バス停(五条坂、祇園など)をはじめ、市内主要バス停(四条河原町や金閣寺道など)における案内活動(49,234千円)

④ 市バスの「両替方式」から「つり銭方式」への変更

千円札でのお支払いに要する時間を約20～30秒から約4秒に短縮

⑤ 交通局、嵯峨美術大学、一般社団法人ツーリストシップの3者連携での、「ツーリストシップニュース」による観光客へのマナー啓発等の発信

旅行者の心構えを広く知っていただく
「ツーリストシップニュース」の掲載例



ウ 地下鉄をはじめとした鉄道を活かした移動経路の分散

輸送力が大きい地下鉄をはじめとした鉄道を組み合わせた移動経路の分散に向けた取組を引き続き実施しました。

- ① 御利用の回復に合わせた朝ラッシュ時間帯や昼間時間帯における地下鉄の増便(令和7年2月22日)
 - ・烏丸線における朝ラッシュ時間帯の増便(8時台、1往復)
 - ・新型コロナの影響で減便した昼間時間帯の復便(11～14 時台、4往復)
- ② 繁忙期における京都駅に向かうバスから地下鉄への無料振替
「東山三条」「金閣寺道」等で実施(1,926 千円)
- ③ 地下鉄をはじめとした鉄道を組み合わせた移動への誘導に係るPR
 - ・多言語でのWEB記事掲載のほか、航空機内、国内空港、関西空港リムジンバス、市内宿泊施設における各種媒体(リーフレット、デジタルサイネージ、観光情報誌等)を活用したPR
 - ・関西の鉄道事業者(10 社局)が連携して作成した京都の鉄道ネットワークをPRするポスターを各社局の電車内中吊り広告枠に掲出
- ④ 「地下鉄・バス1日券」のカード乗車券販売機の増設
観光での御利用が増加している丸太町駅、烏丸御池駅、五条駅、京都市役所前駅に1台ずつ設置(11,330 千円)
- ⑤ 繁忙期におけるJR東海京都駅等での「地下鉄・バス1日券」の臨時販売



令和6年6月1日に運行を開始した「観光特急バス」

令和6年 12 月1日に運賃箱を「つり銭方式」へ変更



観光庁による国庫補助金を活用して実施した取組

～令和6年5月補正予算(事業費 30,600 千円、うち国補助 19,267 千円)～

- ・令和6年6月に運行を開始した「観光特急バス」の利用促進強化
「地下鉄・バス1日券」の旅マエ・旅ナカにおけるPR、京都駅前バスのりばにおける案内サインの充実、案内活動等(17,406 千円、うち国補助 11,604 千円)
- ・地下鉄・バス IC ポイントサービス“もえぽっ”のモバイル ICOCA 対応に伴うPR
ポイントサービスのモバイル ICOCA への利用対象拡大にあわせ、ポイントサービスの登録・利用促進を目的とした PR 用アニメーション動画の製作及び SNS 動画広告への配信等(8,194 千円、うち国補助5,463千円)
- ・「古都京都の文化財」世界遺産登録 30 周年を契機とした周辺路線への誘客事業
山科・醍醐エリアと洛西エリアを巡る2つのモデルコースを設定し、当該コース上の飲食店等で利用可能な特典付き「地下鉄・バス1日券」の発売やガイド付きツアーの開催(計5回)等(5,000 千円、うち国補助 2,200 千円)

3 予算の重点項目

重点① 安全・安心の取組

交通事業者として最大の責務である「輸送の安全確保」を徹底し、お客様に安全・安心に御利用いただくための取組を最優先に実施します。

(1) 輸送の安全確保に向けた取組

【市バス】

- ① 市バス車両の計画的更新(9両 210,582 千円)
- ② 安全運転訓練車によるセーフティーサポート研修
- ③ 外部機関を活用した運転士向け事故防止重点研修、
運行管理者向け指導能力向上研修等(4,110 千円)
- ④ 事故防止や接客向上に向けた階層別研修の実施※再掲
- ⑤ 運転士の安全意識高揚やモチベーションアップに
向けた「運転技能接客コンテスト」の開催(87 千円)※再掲
- ⑥ 車内客留置事案の発生抑止対策
 - ・終点停留所における車内放送を活用した運転士への点検実施の徹底
 - ・営業所での注意喚起看板の掲出による啓発等
- ⑦ 安全対策が必要と思われるバス停に係る安全対策(2か所 833 千円)
- ⑧ 乗降口のマウントアップ化等バス停におけるバリアフリー改修(2,209 千円)



第1回「運転技能接客コンテスト」

【地下鉄】

- ① 烏丸線新型車両の導入(2編成 2,368,359 千円)
- ② 車内防犯カメラの設置(21,939 千円)
 - 新型車両に加え、カメラが搭載されていない既存車両にも設置を開始
 - ・烏丸線3編成…新型車両2編成、既存車両1編成 ※累計8編成
 - ・東西線1編成…既存車両1編成
- ③ エスカレーターの利用マナー向上に向けた啓発活動
 - ・一般社団法人京都府理学療法士会や西日本旅客鉄道株式会社など
10 者連携による合同キャンペーン
 - ・京都府立東稜高等学校と連携したエスカレーターマナーアップキャンペーン
- ④ 駅係員や乗務員への故障や異常時対応等を想定した定期教育訓練の実施



京都府立東稜高等学校の生徒と
教職員がデザインしたチラシ

【両事業共通】

- ① 車内放送等による啓発や警察・大学等と連携した痴漢・盗撮対策など犯罪防止に向けた

取組の実施

京都女子大学の学生による性暴力撲滅プロジェクトチームとともに制作したポスター



(2) 災害対策の強化

【市バス】

- ① 災害時における無線通信設備の停電対策の強化(1,475 千円)

【地下鉄】

- ① 駅出入口等における浸水対策の強化

- ・止水板…東山駅・東山変電所(9,876 千円)

国への要望活動により国庫補助対象となった変電所設備に初の浸水対策

- ・簡易型止水板…8駅 15 か所の出入口(6,347 千円)

従来の水のうに代わり設置等が容易な簡易型止水板を新たに導入
烏丸線…松ヶ崎駅1か所、北山駅1か所、鞍馬口駅2か所、
今出川駅4か所、四条駅1か所
東西線…烏丸御池駅4か所、二条駅1か所、太秦天神川駅1か所



簡易型止水板

駅出入口の止水板



- ② 烏丸線各駅のホームにおける安全対策(13,297 千円)

軌道階への転落防止対策として、ホーム階ベンチを線路に対して垂直となる向きへ付け替え(松ヶ崎駅、鞍馬口駅、九条駅、十条駅、くいな橋駅)

※可動式ホーム柵未設置駅での付け替えが完了



施工後のベンチ

重点② 担い手不足への対応

「市バス運転士不足 非常事態宣言」の発出(令和6年9月)を踏まえ、職員の処遇や職場環境の更なる改善を図るなど、引き続き事業運営を支える担い手の確保策を推進しました。(再掲)3～4 ページ参照

重点③ 利便性・快適性の向上

お客様により便利で快適に御利用いただくことを目指して、御利用環境の整備やサービス向上の取組を進めています。

【市バス】

① バス待ち環境向上の取組

バス停上屋やベンチの新設、更新(14,498 千円)



バス停上屋

② 市バスのリアルタイム運行情報(車内混雑度や走行位置等)の発信

令和7年度における交通局ホームページでの発信(日本語、英語)に向け、市バス車両に混雑度を計測するカメラセンサを設置(R6～7年度計 614,350 千円)

※令和10年度には国土交通省が推奨する国際標準(GTFS-RT)に準拠したリアルタイム運行情報を公開予定

③ 暑熱対策の取組

夏期におけるミスト装置の稼働(京都駅前バスターミナル A～D のりば、四条通バス停(四条高倉・四条河原町))(4,906 千円)

【地下鉄】

① 御利用の回復に合わせた朝ラッシュ時間帯や昼間時間帯における地下鉄の増便(令和7年2月 22 日) ※再掲

・烏丸線における朝ラッシュ時間帯の増便(8時台、1往復)

・新型コロナウイルスの影響で減便した昼間時間帯の復便(11～14 時台、4往復)

② 多言語翻訳機の追加配備(9台 320 千円)

特に使用機会の多い5駅に追加配備(今出川駅、烏丸御池駅、四条駅、五条駅、京都駅)※令和5年度に全ての地下鉄駅及び交通局案内所に配備済

【両事業共通】

① 地下鉄・バスICポイントサービス“もえぽっ”のモバイル ICOCA への対応(令和6年8月1日)

ICOCA・PiTaPaに加え、モバイル ICOCA をポイントサービスの利用対象に拡大(R5～6年度計 49,500 千円)

② バス-地下鉄-他社線の連絡IC定期券の発売(令和7年3月 22 日)

定期券1枚でバス-地下鉄-他社線(近鉄、京阪電車、JR西日本、阪急電鉄)に乗車可能なICOCAによる連絡定期券の発売

洛西“SAIKO”プロジェクトによる交通のバージョンアップに係る取組

洛西地域のまちづくりと連動したバス路線網のブラッシュアップや利便性向上策等に取り組んでいます。

- ・ まちづくりと連動したバス路線網のブラッシュアップ(令和6年6月実施)
洛西バスターミナル～鉄道駅(阪急洛西口駅・JR桂川駅)を約10分の最短ルートで結ぶバス路線の新設や洛西ニュータウン内の回遊性の向上等
京阪京都交通との市バスIC定期券の共通利用の開始(桂坂エリア～阪急桂駅間)
- ・ 洛西 SAIKO(さあ、いこう)！MOTTO(もっと)おでかけ割
保護者1人につき、小学生2人までの小児運賃を無料とする桂・洛西地域限定キャンペーンを令和7年3月の土日祝と春休み期間(3月21日～4月6日)に実施(計24日)
- ・ ヤサカバスとの市バスIC定期券の共通利用の開始
ヤサカバスのIC導入に合わせ、市バスIC定期券(市内中心＋桂・洛西地域フリー等4種類)でヤサカバスに御乗車いただける共通利用を開始
- ・ 市バスIC定期券「桂地域フリー」の発売
阪急桂駅及びJR桂川駅周辺の「桂地域」のみを対象としたフリー定期券を新設
- ・ 高校生以下を対象とした市バスIC通学フリー定期券の発売
中学生・高校生、幼稚園児・小学生向けに発売(全市域対象)
- ・ 洛西営業所定期券発売所をJR桂川駅前へ移設
営業日をこれまでの「月末と月始の5日間」から「年中無休(年末年始除く)」に拡大

「meet us 山科-醍醐」による地下鉄駅の賑わい創出等に係る取組

山科・醍醐地域の魅力やポテンシャルを最大限活かし、あらゆる世代がワクワクするような山科・醍醐を地域の皆様と目指す取組を進めています。

- ・ 「サブウェイ・パフォーマー復活フェス in 醍醐」(令和7年2月 23 日開催)
醍醐寺で開催される「五大力尊仁王会(通称:五大力さん)」に合わせ再開イベントを醍醐駅で開催 ※音楽やダンス等のパフォーマンスで駅を盛り上げていただくサブウェイ・パフォーマー事業をコロナ禍を理由に休止して以来5年ぶりに再開
- ・ 駅構内におけるワゴン販売の開始(令和7年3月7日開始)
地下鉄醍醐駅構内で市内事業者等の野菜や関連商品をお買い求めいただけるワゴン販売の開始
- ・ コトチカ山科への魅力的な店舗誘致(令和7年3月 24 日開店)
山科区内へは初出店となる BAR「お酒の美術館コトチカ山科店」のニューオープン

※これらのほか、上記2つのエリアを巡る「古都京都の文化財」世界遺産登録 30 周年を契機とした周辺路線への誘客事業を実施 (再掲)

重点④ 明確な理念に基づく“なりふり構わない経営改善”の取組

厳しい経営状況にある市バス・地下鉄の持続可能な事業運営を目指し、周辺部への誘客をはじめとする利用促進、収入増加、経費削減等に取り組み、より一層の経営健全化を推進しています。

(1) 利用促進・収入増加策

【両事業共通】

- ①一人でも多くのお客様に御利用いただくための利用促進活動の展開
 - ・『地下鉄・バス「MOTTO!」利用促進本部会議』による全庁体制での「市バスの赤字系統の利用促進」及び「地下鉄とバスを組み合わせた移動への誘導」に向けた取組の推進
 - ・リアル謎解きゲーム「今日も京都でなぞ旅日記 2024」など民間事業者等との連携による利用促進の取組
 - ・定期券の利用促進に向けた大学・経済団体等に対する営業活動
 - ・立命館大学映像学部との連携によるPR映像の制作(定期券の販売促進、市バスへの大型手荷物の持ち込み抑制)
- ②駅ナカビジネスの展開(収入 10.8 億円) ※一部再掲を含む
 - ・コトチカ四条・京都・山科における一部店舗のリニューアル
 - ・イベントスペースの利用促進やワゴン販売の開始等
 - 地下鉄醍醐駅における野菜等の販売(令和7年3月7日開始)
 - ・食品ロス削減に貢献する自動販売機の設置等
- ③広告料収入をはじめとしたあらゆる増収策の実施
 - ・デジタルサイネージ広告の新設やクライアントニーズを踏まえた販売促進による広告料収入の確保(収入 9.7 億円)
 - 四条駅コンコース階への大型デジタルサイネージ広告の新設、京都駅ホーム階へのデジタルサイネージ広告の設置着手(令和7年5月稼働開始)、空き枠となっている電照式広告看板の移設(御陵駅→丸太町駅、四条駅→鞍馬口駅、山科駅)
 - ・まちピンチキャラクターのLINEスタンプ(第2弾)の販売
 - ・ふるさと納税寄付金による資金調達(収入 2.9億円)
 - 返礼品として「地下鉄・バス1日券」の出品や、地下鉄の運転体験会の実施等



LINEスタンプ
(第2弾)

四条駅コンコース階の大型
デジタルサイネージ広告
「みやこビジョン四条」



(2) 経費削減策

【市バス】

- ① 操車場の運行管理体制の効率化やバス車両の整備体制の見直し等
- ② リース方式でのバス車両の調達による企業債償還負担の軽減

【地下鉄】

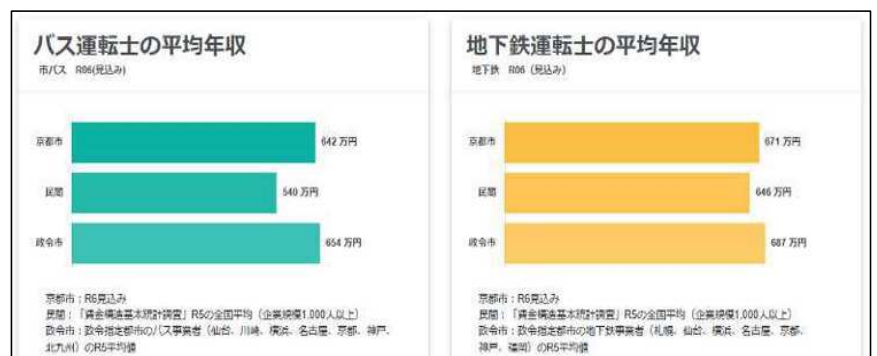
- ① 改集札機のIC専用機導入等による保守管理費用等の見直し
- ② 車両や設備更新による電力使用量の削減
烏丸線新型車両導入(2編成)、エスカレーター更新(北大路駅)、エレベーター更新(松ヶ崎駅、五条駅)、駅舎等照明のLED化(醍醐駅、東野駅、山科駅)

【両事業共通】

- ① 定期券発売所の営業日や営業時間の見直し(令和6年5月1日)

(3) 経営状況の見える化

- ・まちピンチキャラクターを活用した経営状況の発信等
- ・市バス「営業係数」のバス停時刻表や車内路線図への掲示



まちピンチキャラクターを活用した経営状況の発信例

(4) 国の支援制度の活用等

【令和6年度に活用できた主な制度】

- ・「観光特急バス」の新設
観光スポットに直行・急行する路線バスの運賃を届出で設定できるようにする制度改正を全国で初めて活用
- ・地下鉄変電所等電気設備への浸水対策事業
新たに国庫補助対象となった変電所設備(東山駅に隣接する変電所)への浸水対策の実施
- ・物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金による燃料高騰支援
令和6年度繰入額…市バス約 2.1 億円、地下鉄約 2.8 億円
(参考)令和2～6年度累計額…市バス約 18.7 億円、地下鉄約 27.2 億円

重点⑤ 社会課題解決への貢献等

子育て支援や事業活動における環境への配慮などSDGsの達成など社会課題解決に向けた取組を展開しています。

【市バス】

- ① 電気バスの導入(2両)に向けた事業着手(令和7年度に運行開始予定)
- ② 「きょうとエコサマー」の継続実施

未来を担う子どもにバスを身近に感じてもらうきっかけとなるよう夏休みの期間中に保護者1人につき、小学生2人までの小児運賃を無料とする取組を実施

【地下鉄】

- ① 車両や設備更新による電力使用量の削減 ※再掲

- ・烏丸線新型車両導入(2編成)
- ・エスカレーター更新(北大路駅)
- ・エレベーター更新(松ヶ崎駅、五条駅)
- ・駅舎等照明のLED化(醍醐駅、東野駅、山科駅)

- ② 駅構内(東山駅)への授乳スペースの設置を継続
(921 千円)

授乳スペース
「mamaro (ママロ)」



- ③ 駅トイレにおける生理用品の無料提供サービス(8駅 21 か所)
国際会館駅1か所、北山駅1か所、北大路駅2か所、今出川駅1か所、
丸太町駅1か所、烏丸御池駅5か所、四条駅6か所、京都駅4か所

生理用品の無料提供サービス
「toreluna (トレルナ)」



- ④ バリアフリーの推進

- ・エスカレーター更新(北大路駅)に合わせた昇降方向を知らせる音声案内装置の設置
- ・エレベーター更新(松ヶ崎駅、五条駅)に合わせた聴覚障害者用緊急連絡ボタンの設置
- ・車椅子使用者が床付近の状況を確認できるようエレベーターかご内の鏡を追加設置(601 千円) ※対象となる全駅で対応完了

- ⑤ 温水洗浄便座の設置(726 千円)

多機能トイレへ計画的に設置(四条駅2か所、京都駅1か所)

【両事業共通】

①心のバリアフリーの推進

「交通サポートマネージャー」の養成(500 千円)

②定期券等の券面の性別表示削除

③食品ロス削減に貢献する自動販売機の設置(京都市役所前駅2か所) ※再掲

- ・食品ロス削減ロッカー型自動販売機

賞味期限内でありながら廃棄されてしまうパン等を安価に販売

- ・ダイナミックプライシング機能付き自動販売機

AIカメラによって取得した周辺の通行量や消費期限等の情報から価格を変動させる機能を活用したサラダ等の販売

④文化芸術振興

- ・烏丸線新型車両における伝統産業素材・技法の活用

- ・NISHIJIN BUS における西陣織の座席シートカバーのリニューアル

- ・市内8大学との連携による「KYOTO 駅ナカアートプロジェクト 2024」

- ・「詩のホテル」と連携した地下鉄九条駅における詩の展示

- ・「サブウェイ・パフォーマー」事業の再開 ※再掲

- ・京都マンガアニメフェア(京まふ)と連携したアニメ列車「京まふ号」の運行によるPR及びイベントブースへの出展

- ・各種文化・芸術イベントと連携した乗車券の販売

(主なコラボレーション企画)

- ・「村上隆 もののけ 京都」展(ポストカード型地下鉄 1 日券)

- ・「NAKED 夏まつり 2024 世界遺産・二条城」

- ・「Art collaboration Kyoto(ACK)」

- ・「2024 年京都モダン建築祭」

- ・「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 2024」

4 市バス・地下鉄の財政状況

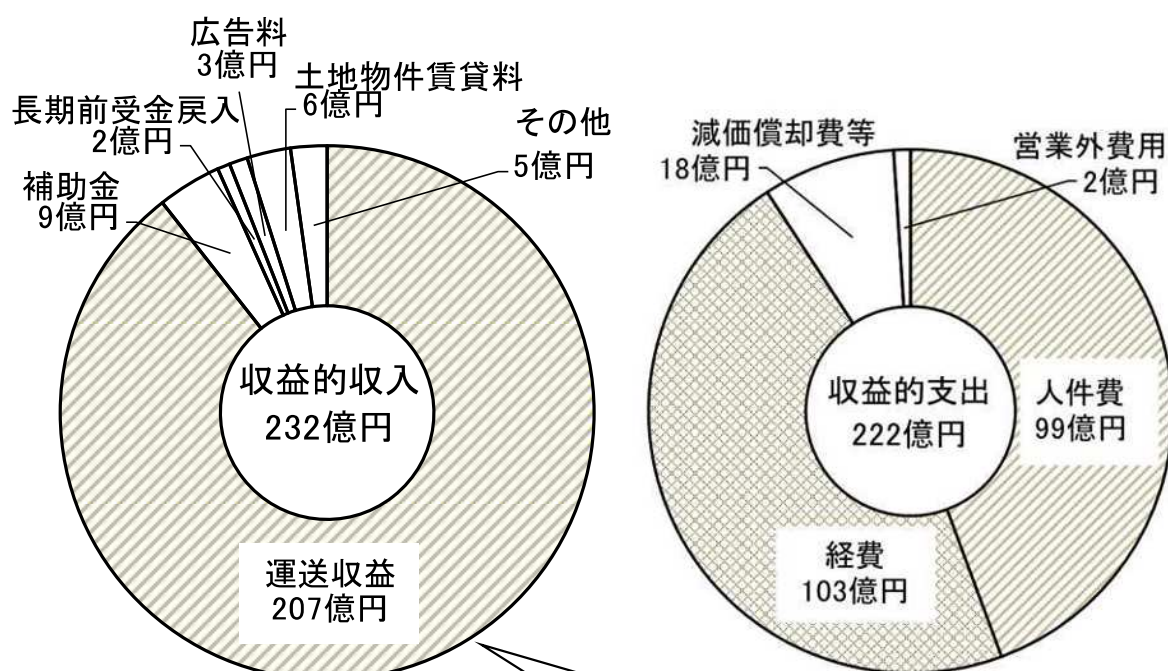
【市バス】

(税抜額。ただし、資本的収支は税込額)

区 分		R5年度決算(A)		R6年度決算(B)		差引増▲減(B－A)	
		億	百万円	億	百万円	億	百万円
収益的 収 支	営 業 収 益	209	43	216	86	7	43
	うち 運 送 収 益	200	09	207	35	7	26
	営 業 外 収 益	10	16	15	05	4	89
	うち 一 般 会 計 補 助 金	6	75	8	83	2	08
	収 入 計	219	59	231	91	12	32
	営 業 費 用	205	30	219	51	14	21
	うち 経 常 人 件 費	84	11	91	52	7	41
	うち 退 職 給 付 引 当 金 繰 入 額	4	09	7	32	3	23
	うち 経 費 (燃 料 費 ・ 修 繕 費 等)	97	35	102	44	5	09
	うち 減 価 償 却 費 等	19	75	18	23	▲ 1	52
	営 業 外 費 用	2	35	2	32	▲	3
	支 出 計	207	65	221	83	14	18
	経 常 損 益	11	94	10	08	▲ 1	86
純	損 益	11	94	10	08	▲ 1	86
▲	累 積 欠 損 金	▲ 10	42	▲	34	10	08
資本的 収 支	収 入	19	41	22	40	2	99
	うち 企 業 債	17	98	21	68	3	70
	うち 補 助 金 等	1	43		72	▲	71
	支 出	34	12	36	65	2	53
	うち 建 設 改 良 費	19	53	21	99	2	46
	うち 企 業 債 償 還 金	14	59	14	66		7
	差 引	▲ 14	71	▲ 14	25		46
資 金	剰 余 額	12	97	30	11	17	14
年 度 末	企 業 債 残 高	83	35	90	37	7	02

(収入・支出の内訳)

【収益的収支】

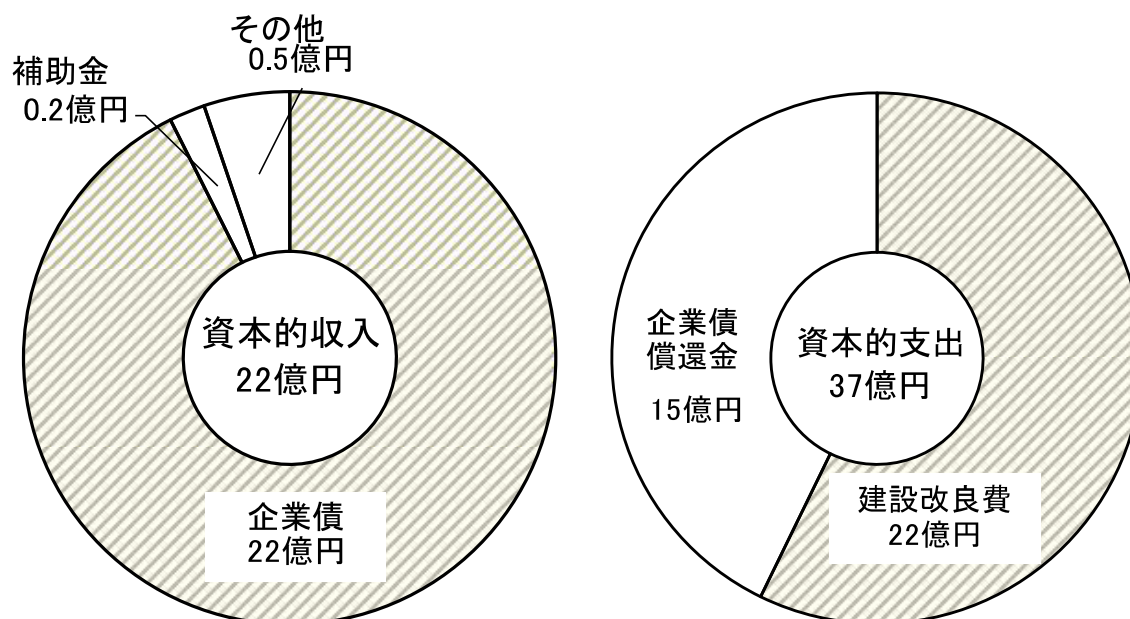


【補助金内訳(収益)】

国補助	0.1億円
府補助	0.1億円
市補助	8.8億円

収入の89%が運賃収入

【資本的収支】



【補助金内訳(資本)】

国補助	0.1億円
市補助	0.1億円

【地下鉄】

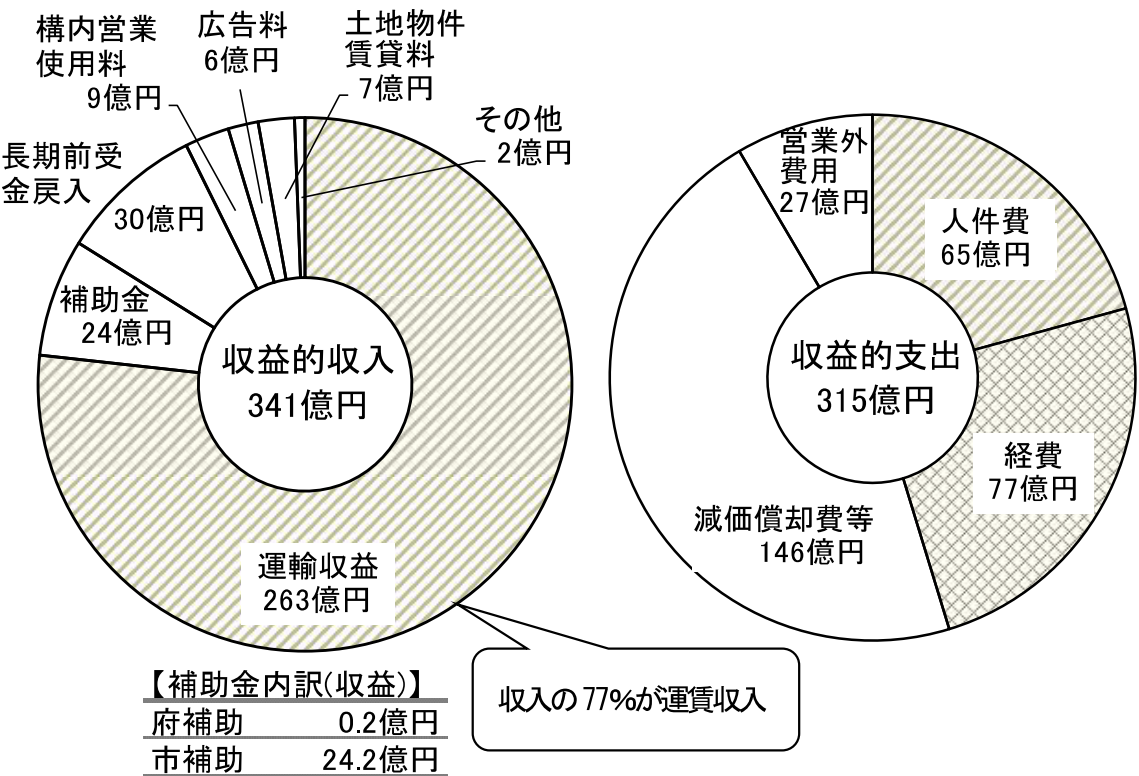
(税抜額。ただし、資本的収支は税込額)

区 分		R5年度決算(A)		R6年度決算(B)		差引増▲減(B-A)	
		億	百万円	億	百万円	億	百万円
収益的収支	営 業 収 益	275	25	286	70	11	45
	うち 運 輸 収 益	251	94	262	60	10	66
	営 業 外 収 益	56	71	54	70	▲ 2	01
	うち 一 般 会 計 補 助 金	26	71	24	23	▲ 2	48
	うち 長 期 前 受 金 戻 入	29	69	30	02		33
	収 入 計	331	96	341	40	9	44
	営 業 費 用	279	04	288	00	8	96
	うち 経 常 人 件 費	54	48	57	84	3	36
	うち 退 職 給 付 引 当 金 繰 入 額	3	98	7	42	3	44
	うち 経 費 (動力費・修繕費等)	75	71	77	24	1	53
	うち 減 価 償 却 費 等	144	87	145	50		63
資本的収支	営 業 外 費 用	30	41	27	63	▲ 2	78
	支 出 計	309	45	315	63	6	18
	経 常 損 益	22	51	25	77	3	26
	現 金 収 支	135	07	137	67	2	60
	純 損 益	22	51	25	77	3	26
	▲ 累 積 欠 損 金	▲ 3,101	93	▲ 3,076	16	25	77
	収 入	134	79	191	77	56	98
	うち 企 業 債	108	98	168	86	59	88
	うち 補 助 金	10	79	8	89	▲ 1	90
	うち 出 資 金	14	67	13	43	▲ 1	24
	支 出	264	38	369	51	105	13
資本的収支	うち 建 設 改 良 費	61	28	77	91	16	63
	うち 企 業 債 償 還 金	189	00	274	75	85	75
	差 引	▲ 129	59	▲ 177	74	▲ 48	15
	▲ 累 積 資 金 不 足	▲ 419	62	▲ 438	03	▲ 18	41
	年 度 末 企 業 債 残 高	3,250	81	3,130	81	▲ 120	00

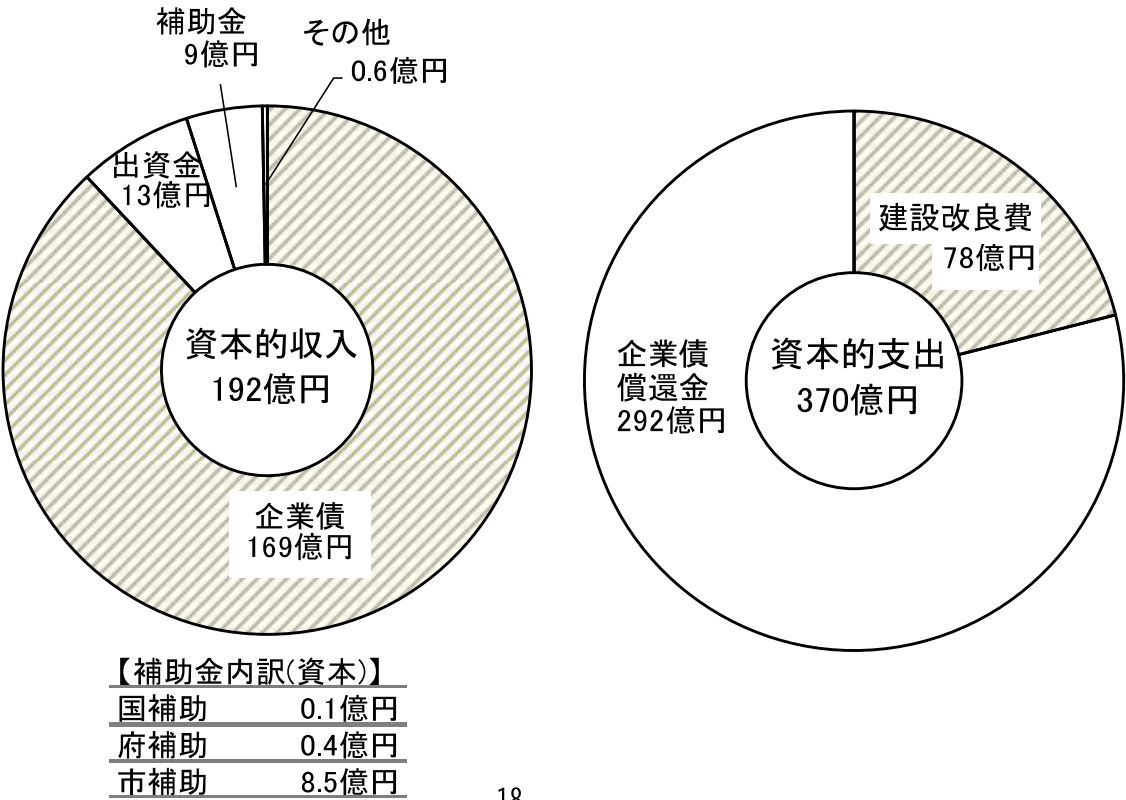
※財政健全化法における資金不足額は生じない。

(収入・支出の内訳)

【収益的収支】



【資本的収支】



(参考) 令和6年度決算における宿泊税充当事業一覧

観光課題対策に資する市バスの混雑対策や受入環境整備事業等に総額で約1.7億円(市バス約1.4億円、地下鉄約0.3億円)を活用しました。

(単位:千円、税込)

混雑対策・受入環境整備事業【宿泊税充当事業】		6年度 決算	市バス	地下鉄
		339,426	277,866	61,559
		165,880	136,165	29,715
収益的 収入	「修学旅行1dayチケット」の販売	56,143	37,428	18,714
		28,071	18,714	9,357
	夏期におけるミスト装置の稼働	4,515	4,515	—
		2,257	2,257	—
	バス停におけるバリアフリー改修	2,209	2,209	—
		1,104	1,104	—
	観光マップ「地下鉄・市バスなび」の製作	14,249	6,270	7,979
		7,124	3,135	3,990
	他社局と連携した「地下鉄・バス一日券」の広域PR	3,195	1,406	1,789
		1,597	703	895
	主要バスのりばにおける分かりやすい案内表示への修正	21,148	21,148	—
		10,574	10,574	—
	車外での運賃収受によるバスの停車時間短縮	5,162	5,162	—
		2,581	2,581	—
	市バスにおける4か国語コミュニケーションボードの修正	538	538	—
		269	269	—
	地下鉄全駅における全線路線図の全面更新	2,640	—	2,640
		1,320	—	1,320
	地下鉄駅における多言語対応小型翻訳機の追加配備	320	—	320
		160	—	160
	どなたにも快適に御利用いただけるトイレの清掃・維持管理	8,253	552	7,701
		4,126	276	3,850
	地下鉄駅構内における整列・誘導ラインの整備	834	—	834
		417	—	417
	京都市バス“おもてなしコンシェルジュ”による案内活動	45,000	45,000	—
		22,500	22,500	—
	市内主要バス停(四条河原町や金閣寺周辺)における案内活動	49,234	49,234	—
		21,849	21,849	—
	京都駅前バスのりばにおける整列・誘導等	37,409	37,409	—
		18,704	18,704	—
	繁忙期における京都駅へ向かうバスから地下鉄への無料振替	1,926	1,926	—
		963	963	—
	地下鉄をはじめとした鉄道を組み合わせた移動への誘導	19,533	8,595	10,938
		9,767	4,297	5,469
	運賃箱のつり銭方式への変更	21,820	21,820	—
		10,910	10,910	—
	バス待ち環境の向上	1,928	1,928	—
		964	964	—
	観光特急バスの利用促進に係るPR	14,136	14,136	—
		7,068	7,068	—
	小計	310,189	259,274	50,916
		152,326	126,868	25,458
資本的 収入	夏期におけるミスト装置の稼働	391	391	—
		196	196	—
	運賃箱のつり銭方式への変更	8,083	8,083	—
		4,041	4,041	—
	バス待ち環境の向上	10,119	10,119	—
		5,059	5,059	—
	地下鉄の既存車両における車内防犯カメラ設置	10,643	—	10,643
		4,257	—	4,257
	小計	29,236	18,593	10,643
		13,554	9,296	4,257

※表中の金額のうち上段は経費、下段は宿泊税充当額を示します。

※端数調整のため表中の内訳が一致しない箇所があります。